

日刊 動労千葉

85.8.12

No. 2013

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七二〇七

中曽根の戦争政治を阻止せよ

8月4日「8・4言論・表現の自由を守り破防法廃止をめざす国民大集会」が東京・日比谷公会堂で三千名の労働者・市民を集め開催され、呼びかけ人の飛鳥田一雄氏・田畑忍氏を始めとする各界人士よりの「中曽根の戦争政治を阻止するため、破防法廃止の運動を軸に広範な国民戦線をつくり出そう」という許えと、破防法裁判闘争をささえる署名・カンパ、さらには全国各地での破防法廃止集会や行動を取り組むなど、今後の具体的闘い方を全体で確認した。動労千葉も全支部から87名が参加した。



沖繩の心と固いを熱烈に訴える「沖繩民権の会」古波津英興氏

全国の闘う人士が「中曽根打倒」を呼びかける

集会は第一部、一フット運動でアメリカからフィルムを買い集めた沖繩戦40周年記録映画「戦場ぬ童」の上映で始った。4月の住民を米軍に日本軍に虐殺され、今なお戦場の島である沖繩、「決して戦後は終らない」、「生き残った私達は絶対に戦争をおこしちゃあならない」と語る人々の言葉は、私達、本土の労働者への怒りであり、闘いへの問いかけとして全参加者の心を打つものであった。

続いて、呼びかけ人の一人で狭山差別裁判弁護団長の佐々木哲蔵氏よりのメッセージを受け、全国各界からの発言に入った。

社会党顧問の山花秀雄氏、元江東区議の石川清氏につづきあいさつに立った動労千葉布施書記長は、「分割・民営化」10万人首切り攻撃への怒りをこめ「中曽根がわれわれ労働者の首を切り、生きる権利を否定するならば、どちらが生き残るのか



さんは、二期本格着工攻撃と連日闘いぬき、7月19日には、公団・土地

をかけ闘いぬかねばならない。破防法攻撃も国鉄攻撃も根は一つだ。中曽根の戦争攻撃を阻止するため共に闘おう」と力強く訴えた。

茨城県職員組合委員長の時崎雄司氏の発言のあと三里塚空港反対同盟を代表して発言に立った、小川嘉吉



三里塚-国鉄決戦で中曽根打倒を訴える布施書記長

収用委員会を相手どり、二期工事差し止め訴訟を、起こしていることを報告するとともに「真の民主主義を守りぬぐために共に中曽根を打倒しよう」と熱っぽく訴えた。

さらに、沖繩民権の会の古波津英興氏、東大阪市議・部落解放同盟荒本支部長の瀬川博氏、前杉並区議・長谷川英憲氏、北海道自由人権協会代表・大内基氏、関西破防法裁判闘争を支える会・志賀大教授の松尾博氏、淡路町空港反対同盟代表・永井満氏が次々発言し、「破防法・国家機密保護法という中曽根の戦争攻撃と断固対決しよう」と訴えた。

破防法を粉碎し 反ファシズム 国民戦線構築を確認

第二部は、前那覇市長・平良良松氏、沖繩・読谷村長・山内徳信氏よりの「破防法は平和への願いや運動を取り締まるものだ。沖繩の地で、基地にかこまれている村の中で、人間の尊厳をも否定せんとする権力に対し、歴史の教訓を生かし闘いぬぐ」とのメッセージを受け開始された。

槇枝元文・前総評議長の「労働組合運動と破防法」と題する発言を受けたのち、講演に入った。（裏面へ）



労組組合全体の決起を訴える槇枝元文総評議長

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ